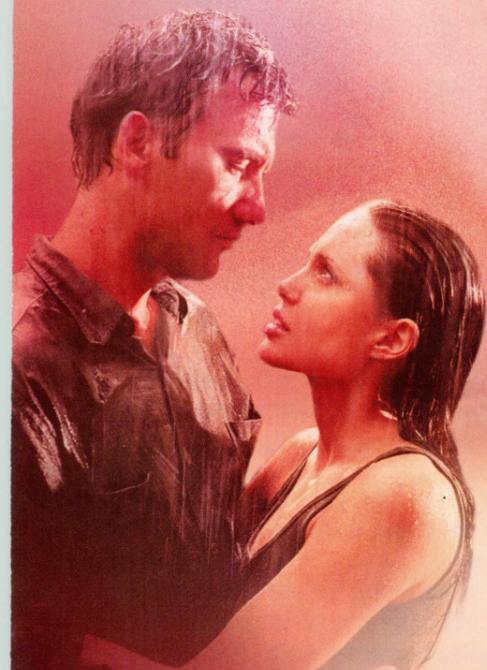


お正月、思いっきり泣いてください!!!

アンジェリーナ・ジョリー

クライヴ・オーウェン



一度だけ抱かれた男に命を捧げる。
たとえ道に背いた愛だとしても。

本年度アカデミー賞最有力候補!

すべては愛のために *beyond borders*

MANDALAY PICTURES PRESENTS IN ASSOCIATION WITH CP MEDIEN A CAMELOT PICTURES PRODUCTION ANGELINA JOLIE CLIVE OWEN "BEYOND BORDERS" TERI POLO
LITUS ROACHE NOAH EMMERICH YORICK VAN WAGENINGEN COMPOSED BY JAMES HORNER MUSIC PRODUCED BY BUDD CARR COSTUME DESIGNER NORMA MORICEAU EDITOR NICHOLAS BEAUMAN
PRODUCTION DESIGNER WOLF KROEGER DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY PHIL MEHEUX EXECUTIVE PRODUCERS J. GEYER KOSINSKI PRODUCED BY DAN HALSTED AND LLOYD PHILLIPS WRITTEN BY CASPIAN TREDWELL-OWEN DIRECTED BY MARTIN CAMPBELL
特別協力: 読売新聞社/ノベリス: 竹書房刊/セントラル: ジェネオン エンタテインメント、ランブリング・レコーズ/提供: 日本ヘラルド映画、ポニーキャニオン/配給: 日本ヘラルド映画

www.ainotameni.jp

イギリス、エチオピア、カンボジア、チェチェン—
4ヶ国10年にわたる命をかけた壮大な愛の叙事詩

これが、愛。たとえ誰も許さなくても。

英国社交界の華と謳われた美しい人妻サラの人生は、ある日、虚飾に満ちた慈善パーティーに突如飛び込んできた青年医師ニックとの出会いにより、劇的に変わることになる。"世界には今、この瞬間も命を落とす子供たちがいる"というニックの言葉に衝撃を受けたサラは、私財を投げ打って遙かなる異国の地へと向かう。そこで危険に身をさらしながらも懸命に救援に従事するニックの献身的な姿を目にしたサラは、生まれて初めて体中を駆け巡る熱い想いを感じる。一方ニックも純粋な心を持つサラに、抑えきれない感情を抱く。

だが、サラは家族の待つイギリスに戻らなければならない。心引き裂かれる別れと、離れているからこそ募る想い。サラは、この出会いによって真実の愛を知り、全てを捨てて愛の炎に身を任せる。そして2人の4ヶ国10年にわたる愛は、運命に導かれるままに、壮絶なクライマックスを迎えることに…。

アカデミー賞最有力候補!

アンジェリーナ・ジョリーが全ての女性に贈る、愛と涙の感動巨編

「17歳のカルテ」でアカデミー賞助演女優賞を受賞以降、凛としたまなざしと美貌でハリウッドのトップ女優に君臨し続ける、アンジェリーナ・ジョリー。

実生活では、28歳という年齢にもかかわらずUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の親善大使として、世界各国で熱心な救済活動を続けている。また、カンボジア難民の男の子を養子に迎え、惜しみない愛情を注いでいる。そんなアンジェリーナが女性として、母として、女優として様々な経験を経て取り組んだ感動作が「すべては愛のために」である。



イギリス、エチオピア、カンボジア、チェチェン—
4ヶ国にわたる愛の旅路

果てしなく続く地平線が広がる乾いたエチオピアの大地、まとわりつくような湿気を帯びた深緑のカンボジア、白銀に包まれた極寒のチェチェン、そして文明の歴史が色濃く刻まれたイギリス。異国情緒溢れる魅力と雄大な自然をたたえた4カ国におよぶ壮大なロケーションは、運命に翻弄される2人の愛の姿を時に過酷に、時に甘美に描き出す。

粗野で野性味溢れるニックを演じるのは、次のジェームズ・ボンド候補のクライヴ・オーウェン。シューマンの名曲「トロイメライ」の優しい旋律が、切ないまでに高まる2人の薄幸の愛をより一層切なく彩る。

すべては愛のために *beyond borders*



監督: マーティン・キャンベル
出演: アンジェリーナ・ジョリー、クライヴ・オーウェン
2003年/アメリカ映画/マンダレイ作品/SRD/スコopサイズ/2時間7分
原題: BEYOND BORDERS
特別協力: 読売新聞社/ノベリス: 竹書房刊
セントラル: ジェネオンエンタテインメント、ランブリング・レコーズ
提供: 日本ヘラルド映画、ポニーキャニオン
配給: 日本ヘラルド映画
www.ainotameni.jp

12/20(土) 全ての女性に贈る、唯一の愛の物語
〈涙〉の全国ロードショー

品川プリンスホテル内
品川プリンスシネマ (5421)
03 1113

が愛を貫いた主人公に熱狂!

岸恵子さん(女優・作家・国連親善大使)

今迄に、その片鱗を見知った世界なのに、戦慄を伴ったしたたかなショックを受けました。飢餓にうごめく虐げられる弱者と、彼らを救う立場にある軍隊の強欲と横暴。そのはざまに芽生える、熱血の医師と国連活動に従事する女性との宿命的な恋。壮大なスケールで描かれる十年間に亘る愛の物語が胸に滲みます。かたちは違っても、拙著「風が見ていた」の、救援活動に一生を捧げる日本人医師と、ドクター・ニック・キャラハンが重なり、茫然とした感動で身動きが出来ません。また、実生活でも国連難民救援に惜しみない愛を捧げる、美しいアンジェリーナ・ジョリーに絶大な拍手を贈ります。

唯川恵さん(作家)

愛は深く、広く、激しく、そして、逞しいもの。アンジェリーナの強い意志を感じさせる演技とパワーに感動した。

高嶋ちさ子さん(バイオリニスト)

観て終わる映画ではなく、観てから始まる映画です。その続きのヒロインはわたしたちです。続きを自分が引き継ぐことが大切だ、と心から思った映画でした。

山下久美子さん(シンガー)

命を救い、育み、愛に生きる女性に宿る力はものすごいのだ。神様はまだ私達に失望していない...そんな思いに胸を熱くしました。

雅姫さん(モデル)

大自然のありのままの姿、想像を絶する現実に圧倒。そこにいる等身大の彼女がなによりも強く美しくみえた。

高田万由子さん(女優)

住む世界が違う2人の人間が、命を懸けて愛と勇気を求めあう心に感動しました。ショッキングな内容でしたが、子を持つ親として何かしなければと思いました。



(順不同)

する大きな花になることは確かだったからだ。

夫の愛情を一身に受け、子供にも恵まれたサラはしあわせを絵に描いたような毎日を送っていた。そして、もちろんサラもそれが最高の人生と信じて疑わなかった。青年医師ニック(クライヴ・オーウェン)が出現するまでは...

が、難民キャンプの子供たちにかける荒々しく、ひとすじなニックの情熱は、サラが信じたしあわせに、サラ自身気づかなかった裂け目を見つけて忍び込み、映画を観る私たちの平穏なしあわせのほころびにも忍び込む。そして、映画が進むにつれて、その情熱がサラの心の中で、私たちの心の中で、静かに炎を上げ始めるのだ。

かといって、サラが家族を捨てたわけではない。なぜなら、サラは

家族を愛していたからだ。しかし、情熱がサラを動かす。それは、不倫と呼ぶにはあまりに痛々しく、初々しい“生きる”ことへの叫びである。サラは人生において、今初めて自分が、自分でつけた生を自分の手でつかもうとしているのだ。

サラがたとえ背信の罪に問われようと、その一部始終を目撃している私たちにわかる。ここには、痛みを伴う新しい“生”への希求、抱きしめたい不幸なしあわせ、たしかな未来をつかむ生まれたての喜びがあることを...

サラはそうして、わたしたちに、人生を強く感じるための、消えることのない小さな炎を贈る。(和久本みさ子/映画評論家)



オスカー女優アンジェリーナ・ジョリーが、国連親善大使としてのもう一つの顔を自ら綴った話題の書、いよいよ日本刊行。

「アンジェリーナ・ジョリー 思いは国境を越えて」

【著者名】アンジェリーナ・ジョリー 【発行・発売】産業編集センター
【定価】1700円 【発売日】2003年12月10日



世界中の女性

桐島洋子さん(作家)

久しぶりに涙を流した。それは悲しみの雫ではなく、溶岩のように殺到して魂を燃え上がらせる灼熱の涙だった。

安藤優子さん(ニュースキャスター)

志を通す、思いを貫く、どちらも厳しく、勇気だけがそれを可能にしてくれる。サラのまっすぐな勇気に心うたれる。

サマンサ・ミラーさん(ピープル誌)

スクリーンの中でアンジェリーナは確かにこのヒロインの人生を生きていた。彼女はこれで再びアカデミー賞にノミネートされるに違いない。



—サラがわたしたちに贈る、情熱という名の炎—

この秋、木枯らしの吹き始めるロンドンでアンジェリーナ・ジョリーに会った。白いシンプルな服を着た彼女がいつになく美しく見えた。それは、彼女の中であきらかになにかが起こったことを想わせる美しさだった。いったいアンジェリーナになにかが起こったのか。どんな質問にも率直に答えを返す彼女は、その時、こう答えた。

「『すべては愛のために』でヒロインを演じたことでわたしの人生は大きく変わった。この映画はわたしに演じることでなく、生きることを要求したの。それは、わたしの心の旅になった。わたしはこれまで、どんなに小さなことで頭を悩ませ、不眠になっていたか。でも、この映画はわたしに“強く感じる”ことのすばらしさを教えてくれた...」観る側からいっても、映画には“観る”映画と“生きる”映画がある。

アンジェリーナがそうであったように、「すべては愛のために」は、“生きる”映画であり、“人生が変わる”映画だといえるだろう。それほどまでにこの映画はわたしたちの心を掴み、しあわせだと思おう、わたしたちの足元を揺るがさずにはいない。

それは、しあわせの中で眠っている情熱を目覚めさせられることからくる、苦痛を伴う新しいしあわせの誕生を意味するのかもしれない。

アンジェリーナ演ずるサラもそうだった。天性恵まれた美貌のアメリカ人女性のサラがロンドン社交界の著名な慈善家、富豪のボーフォード家に嫁いだ時、美男の御曹子ヘンリー(ライナス・ローチ)は、社交界から喝采を浴びたものだ。彼女が今後社交界の慈善事業を推進

dens

beyond borders